豚熱

現地対策班　埋却グループ

防疫作業マニュアル

目　　次

１　主な役割　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　グループ構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（１）準備段階（遺伝子検査陽性後）

（２）病性判定時（殺処分の開始、県庁動員職員以前）

（３）殺処分（県庁動員職員導入後）

３　作業内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（１）埋却準備

（２）殺処分家畜の輸送、投入

（３）埋却作業

（４）排せつ物等汚染物品の埋却

（５）作業者の安全性確保

埋却グループ

１　主な役割

・　埋却グループは、防疫作業(埋却)準備のため、発生農場の埋却地の確認を行う。
・　埋却措置の進行管理を行い、管理グループに報告する。
・　リーダーは、持参した殺処分計画・埋却計画を確認、作業日報を作成し、作業の進捗状況を管理グループに報告する。

２　グループ構成

（１）準備段階(遺伝子検査陽性後)

リーダー	畜産振興課３名、現地家畜保健衛生所１名	・埋却地の確認 ・埋却計画の作成 ・住民説明の調整 ・建設業協会との現地作業の調整 ・試掘の開始
サブリーダー	畜産課２名・畜産センター１名、市町村２名	
構成員	協定派遣(建設業協会)3 名	

（２）病性判定時(殺処分の開始、県庁動員職員以前)

リーダー	畜産振興課３名、現地家畜保健衛生所	・殺処分豚の埋却 ・ルート確認 ・埋却作業の進行管理 ・進捗状況報告
サブリーダー	畜産課２名、畜産センター1 名	
構成員	農林事務所４名、協定派遣 16 名	

※リーダーは作業従事者の事故やケガには十分に気を付けて進行管理を行う。
※サブリーダーはリーダーを補佐し、作業の進捗管理と必要資材の調達管理を行う。

（３）殺処分(県庁動員職員導入後)

リーダー	畜産振興課３名、現地家畜保健衛生所	・殺処分豚の埋却作業の指示 ・埋却作業の進行確認 ・進捗状況報告 ・埋却漏れの確認
サブリーダー	畜産課２名、畜産センター1 名	
構成員	農林事務所４名、協定派遣 16 名	

３　作業内容

（１）埋却準備

埋却地は、発生農場が確保している農場内又は農場になるべく近い場所に埋却する事を基本とするが、湧水等により埋却地として不適当な場合は近隣の土地を選定する。なお、借地権に係る交渉及び契約等家畜所有者の責任で行われている事項につい

ては、発生農場と土地所有者との間で行う。やむを得ない事情により、近隣の土地も確保できない場合には、公有地（国、県、市町村）の利用を検討する。

埋却グループは地域住民への周知説明等の必要性がある場合には市町村と協力のもと地域住民への周知説明を行う。畜産課の出席等必要がある場合には経営支援グループと調整する。

埋却作業に先立ち、現地確認、作業内容、人員配置について建設業協会及び経営支援グループと打合せを行い、埋却溝の規模決定、重機等の進入ルート確保、必要資材等の手配を行ったうえで速やかに試掘作業を進める。作業は①防疫フェンス・仮設テントの設置、②埋却溝の掘削、③消石灰の散布（散布の目安は 1kg/㎡）、④ブルーシートの敷設、⑤敷設したブルーシート内面への消石灰散布、⑥殺処分した家畜の搬入及び投入、⑦投入した死体への消石灰散布、⑧埋戻し、⑨埋め戻した土及び周辺への消石灰散布、⑩立て看板の設置（病名（豚熱）、埋却年月日、発掘禁止期間）人や野生動物の侵入防止のため埋却地周辺を囲いの設置の順に進める。

（２）殺処分家畜の輸送、投入

殺処分開始後、死亡を確認した家畜をフレコンに入れホイールローダーやフォークリフト、バックホーなどの重機を用いて搬出し、トラック等により埋却場所へ運搬、埋却作業を行う。埋却地グループ員は殺処分家畜(フレコンバック)発生数、家畜の搬出状況及び飼料・敷料等の汚染物品の埋却量について把握し、埋却地リーダーへ報告する。リーダーは埋却作業の進捗状況とともに埋却作業終了まで要する時間を管理グループに報告する。

埋却場所が発生農場に隣接している場合には、殺処分した家畜は重機で運搬して埋却する（以下のキに該当）。

埋却場所が発生農場から離れている場合は、以下の手順に従いウイルス拡散防止措置を講じたうえで、運搬車両へ積み込み輸送する。

ア　トラックの荷台にブルーシートを敷く。

イ　フォークリフトでフレコンバックを積載する。

ウ　荷台にブルーシートをかぶせ、ロープで縛る。

エ　動力噴霧器で荷台を含む車両全体を消毒する。

オ　埋却場へ運搬するルートは、原則として、他の農場の付近を通過せず、他の畜産関係車両が利用しないようなルートを設定し、必ず消毒ポイントを通る。

カ　埋却場入口で運搬車両を消毒後、埋却場所付近で駐車する。

キ　重機を用いてフレコンバックを輸送、埋却用の穴に投入する

ク　フレコンバックの埋却数について管理を行う。

（３）埋却作業

埋却数の管理・記録、殺処分の進捗状況に応じて作業調整を行う。

基本的に埋却作業は作業員の安全を考え、昼間のみ作業とする。ただし、夜間の作業を行う際には、十分な照明等準備し作業員の安全を確保する。なお、夜間作業用の照明車を国土交通省　常陸河川国道事務所から借り入れることが可能。

埋却作業は、雨天を避けて行うことが望ましく、やむを得ず雨天時に作業を行う場合は、雨量や土質など現場状況を総合的に勘案のうえ、安全性を最優先して判断する。

夜間の作業を中止する場合には、野生動物による掘り返し等によるウイルスのまん延防止の対策を講ずる(石灰散布等)。

〈必要な重機、資材例〉

飼養頭数約 1､000 頭規模で概ね下記の重機、資材が必要になる。

必要な重機、資材については基本的に一般社団法人　茨城県建設業協会等より借り入れ、

○　掘削、埋却用の重機

バックホー：掘削用 2 台、フレコンバッグ等の吊り下げ用 1 台

○　死体等運搬用

密閉車両（トラック）：3 台、フォークリフト：3 台

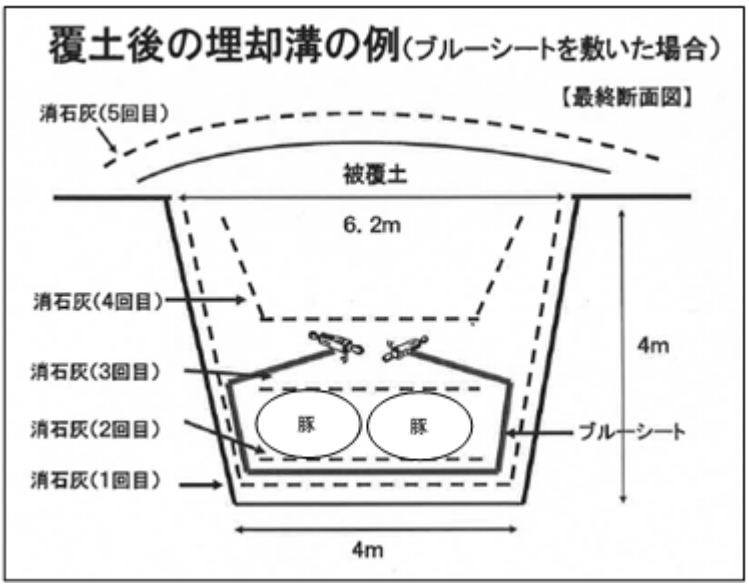
○　消毒用噴霧器：2 基

○　消毒用貯水タンク（500 リットル程度）：2 槽

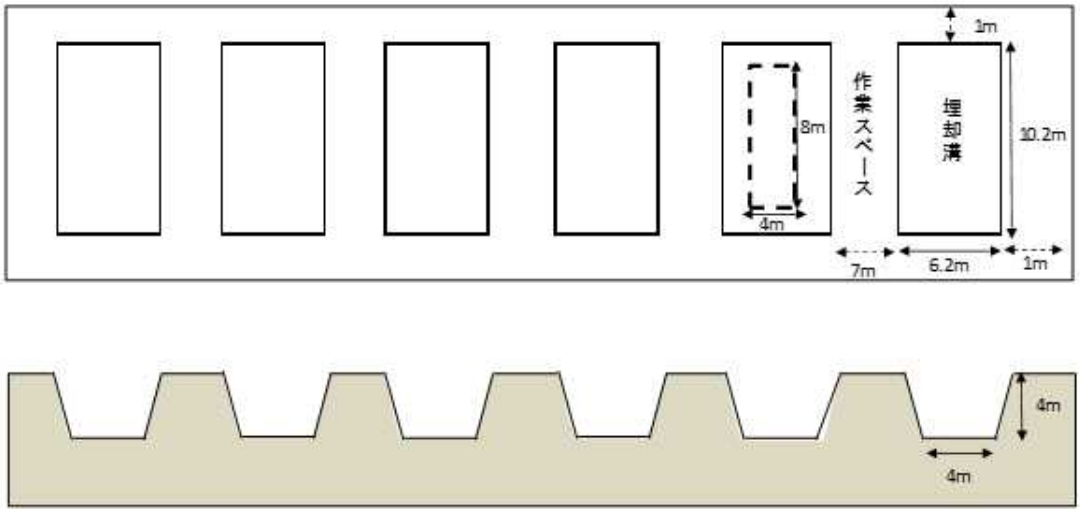
○　そのほか、ブルーシート、測量杭、木槌又はハンマー、消石灰、ロープ、ロープ切断用の鎌又はカッター、埋却溝の深さ確認用の測量棒、鉄板（地盤が弱い場合)、埋却溝の雨水くみ上げ用排水ポンプ（雨天時)、作業者用ヘルメットなど

※夜間作業を行う場合　夜間作業用照明機：5 基

埋却溝のイメージ　　＊シートの上部はガス抜きのため、完全にふさがないこと



埋却溝のイメージ



肥育豚１頭当たり必要な底面の面積 0.222 ㎡
埋却溝１列あたりの底面の面積 4m×8m=32 ㎡
埋却溝１列あたり埋却可能頭数は 32 ㎡÷0.222 ㎡/頭　144 頭

（４）　排せつ物等汚染物品の埋却

ア　汚染物品は、患畜等の排せつ物、敷料、飼料、患畜等やこれらの物に接触し、又は接触したおそれのあるものが該当し原則、埋却する。埋却が困難な物品は、動物衛生課と協議の上、消毒を行う。

イ　敷料、飼料等は原則埋却を原則とするが、困難な場合は散逸防止措置を講じた上で焼却、あるいは発酵消毒してから堆肥化する。

ウ　汚染物品の搬出、埋却作業は協定派遣作業者と協力し、ショベルローダー等の重機やフレコンバッグ、密閉容器（段ボール、ミッペール）などの資材を用いて行う。

エ　家畜の排せつ物は、消毒後に搬出・埋却することを原則とする。
困難な場合には、散逸防止措置を講じた上で、発酵消毒してから堆肥化、あるいは焼却する。

オ　敷料、飼料等は消毒後に搬出する。タンクに保管された飼料は、フレコンバッグ等に詰め替えてから埋却する。

（５）作業者の安全性確保

埋却作業は、いずれの工程も事故の危険性が高いため、以下の事項を中心に作業者の安全性の確保を徹底する。

ア　埋却溝の法肩近くで作業する場合は落下防止を徹底する。
クラック、崩壊の恐れがないか定期的に安全確認を行い落下の防止を徹底する。
必要に応じトラロープ等で囲うほか目印表示等により埋設位置の明示、あるいは立入禁止区域の設定を行う。

イ　作業時は、必ずヘルメットを着用する。

ウ　重機の作業中は旋回範囲内にむやみ立入らない。

エ　作業員の安全のために、オペレーターへの合図者を決めておく。

オ　重機の周囲で作業する場合、重機が停止したことを確認し、オペレーターに合図してから作業を行い、作業終了後は重機から速やかに離れる。

カ　消石灰の散布作業の際は、防護服を適切に装着し皮膚の露出を少なくすること。

＜参考＞

	作業内容
準備段階作業	埋却地確認、埋却計画の作成、建設業協会打ち合わせ住民説明、移動ルートの確認
殺処分開始	重機・埋却地までのルート確認、試掘、フレコン数確認発生地グループで汚染物品を確認・フレコン詰替実施し、埋却グループは埋却作業を管理する。
埋却開始から終了	フレコン数確認、作業の進捗確認、現場建設業者との調整、石灰散布、埋却漏れがないか確認